

日本医師会新型コロナワクチン速報【第11号】

新型コロナウイルスのワクチンに関する現時点における確定情報を速報いたします。必要とされているにもかかわらず不確定な情報については、確定され次第ご案内いたします。

【目次：第11号】

1. ワクチン接種体制の好事例について
2. ワクチン接種体制の課題について

1. ワクチン接種体制の好事例について

- ・ 地域における「新型コロナウイルスワクチン接種体制」の構築・運用に関して、好事例をご紹介いただきました（回収期間：令和3年6月2日～6月8日）。

[令和3年6月2日付日医発第201号（健Ⅱ125F）]

① 三重県 志摩医師会： 集団接種5会場に対応。出務する診療所の医師・看護師に配慮し、木曜日午後、土曜日午後、日曜日終日で予定を組んでいる。希望曜日・会場等をハガキで意向調査し、希望に基づいて市から接種希望者へ予定をお知らせした。市の職員と薬剤師が予診の支援を実施。また、余剰ワクチンは高齢者施設と連携することにより破棄数ゼロとなっている。

② 愛媛県 伊予医師会： 予診ブースと接種ブースを分けず1つにし、予診の医師1人と看護師1～2人で1チーム編成にした。高齢者に配慮し移動を少なくすることで、介助する従事者を最小限にし、少ない人数で効率良く接種に臨んでいる。

③ 東京都 小金井市医師会： 接種の8割以上を個別接種で実施。かかりつけ患者は接種がはじまる1ヶ月前の受診の時点で、次回の診察予約とともにワクチンの予約を入れた。集団接種への協力は、医師会員に医療機関が休診日となっている日をお願いしている。市と医師会で、二人三脚で対策を考えていた。

2. ワクチン接種体制の課題について

- ・ 地域における「新型コロナウイルスワクチン接種体制」の構築・運用に関して、以下の課題をご提示いただきました（回収期間：令和3年6月2日～6月8日）。

[令和3年6月2日付日医発第201号（健Ⅱ125F）]

- 集団接種を担当する看護師等や自治体職員の過重負担による疲労蓄積
- 行政間における接種業務に対する報酬設定の違い
- 接種に伴う「軽度なミス」をことさら強調する報道姿勢
- 高齢者等、慣れない方法による接種予約が困難な方への支援
- ワクチン廃棄を減らすための工夫